

平成26年度 第1回千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

日 時：平成26年7月30日(水) 13:30～15:30

会 場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者：委員 一 岡本委員(議長) 鵜澤委員 水島委員 細井委員 米本委員
西田委員 塚原委員 高野委員 常光委員 齊藤委員
博物館 一 美術館：安藤館長 中央博物館：川戸館長 現代産業科学：
小野館長 関宿城博物館：太田館長 房総のむら：黒川館長
文化財課一永沼文化財課長 萩原学芸振興室長

【議事概要】

1 開 会

2 館長あいさつ 川戸中央博物館長によるあいさつ

3 議 事

(1) 議長・副議長の選出について

事務局：今回は、委員の改選後、初の会議です。博物館協議会運営規則第2条に議長及び副議長は、委員の互選によって定める。とされております。委員のみなさまの中から議長及び副議長を選出していただけますようお願いいたします。

委員：議長に岡本委員を推薦します。

委員：副議長に西田委員を推薦します。

事務局：ただいま、議長に岡本委員、副議長に西田委員の推薦がありました。みなさま、いかがでしょうか。

委員：異議無し

事務局：それでは、議長を岡本委員、副議長を西田委員とすることと決定させていただきます。

事務局：それでは、博物館協議会運営規則第2条第4項の規定により、「議長が会議を主宰する」こととなっておりますので、岡本議長に議事進行をお願いいたします。

(2) 各博物館の現状について

議長：各博物館の現状について、説明をお願いします。

各館長：(説明)

(3) 今期の協議テーマについて

議長：続きまして(3)今期の協議テーマについて、に移ります。説明をお願いします。

中央博物館長：(説明)

委員A：テーマについてのみというように、意見が縛られることはないのですか。

事務局：博物館協議会は、館長の諮問に応えるとともに意見を述べる機関ですので、

幅広いご意見を頂きたいと思っております。

中央博物館長：館に4月に着任して、入館者数アップが至上命令のように言われました。この4か月間、館の職員たちは目に見える努力、目に見えない努力をし、講師としても館外へたくさん出ています。外からは目に見える努力のみが注目されがちですが、見えない努力が多々あることを、もっと注目していただきたいと思っております。

委員A：現在、我が国の人口は年々減少しています。入館者数も県民の人口に対しての利用率で表わすなど、数字の中身を比較検討できるようにした方が良いと思っております。

中央博物館長：大利根分館では、古い民具をたくさん収集しており、それらの道具を出前展示として市川市や我孫子市、船橋市や印西市などの小学校に出向いて展示しています。その評判が口コミで先生方に広がり、年々リピーターが増えて利用者増となっています。このように各館の持ち味を活かした出前展示や出前授業ができることを発信していく必要があると思っております。

議長：学校側から見た博物館への要望と博物館側から学校に向けて発信する情報の両方があると思っておりますが、現場の先生から見て如何でしょうか。

委員B：博物館の利用は、授業との関連が大切です。3年生の学習単元である「古い道具と昔の暮らし」では、古い道具の実物を見たり触ったりすることは学習上とても重要です。ですから、タイムリーに博物館に出かけられることがポイントです。私の小学校では理科の授業の一環として、小学校の最寄り駅である京成稲毛から電車に乗って、中央博物館の生態園に出かけることが恒例になっています。また、博物館の職員は、小学校でどういった授業をしているのか知って頂きたいし、小学校の教員は、教える上で何が足りないのか、考えなくてはいけないと思っております。また、博物館をどのように授業で利用できるのか情報発信をして頂きたいです。従って先生方の学習会である市教研（千葉市教育研究会）などを通して社会や理科などの授業を行う先生方に、直接、博物館の利用法をアピールする必要があると思っております。

議長：各館、それぞれに取り組んでいるとは思いますが、上手く機能していないかも知れません。

委員C：先生方の研修会などに出向き、博物館が学校の授業の中で、どのような活用方法があるのか伝える必要があると私も思います。

委員D：学校が博物館を利用するに当たっては、地域性も重要だと思います。特に移動時間がポイントになります。県南の地域では、県立安房博物館や県立上総博物館も市に譲渡されてしまい、県立館に行こうとすると遠くなってしまいました。移動時間が長くなると、博物館利用のデメリットの方が重くなってしまいます。学校も丸一日使って博物館利用をしているのが現状です。

中央博物館長：中央博物館では、見学の受け入れのみならず、雨天時の昼食場所としての館のホールの提供や、夏季の猛暑時の館内への一時避難など、幅広い受け入れをしています。

美術館長：県立美術館では、教育普及担当の職員が5名しかおらず、出前授業等の

対応には限界があります。平日の授業への対応だけではなく、学校側も休日の博物館利用があっても良いのではないかと思います。

委員A：私は千葉市の出身です。小中学校当時、遠足がありましたが、今もありますか。

委員B：国会の見学や科学技術館の訪問、など東京方面に行っています。社会科の学習としては、鎌倉へ班行動として出かけ、総合的な学習としても位置付けています。3.11以降は、児童の安全面を考え、佐倉市に場所を移し、街並みの探検と歴博の見学をしています。同じようなことが千葉市内でもできるといいと思います。

例えば、千葉城を拠点にした学習フィールドが作れるといいです。

委員E：NHKでは、訪問学習とスタジオ見学をセットにしています。ただ単に施設見学をするのではなく、まず学ぶ時間としてNHKの役割などを座学し、それから実際にスタジオなどを見学するスタイルです。

中央博物館長：訪問学習とはどのようなものか、もっと具体的に教えてください。

委員E：NHKに見学に来る学校団体を20名ぐらいのグループに分けて、公共放送の意味やスタジオについての事前学習を行います。その後、実際のスタジオに行ってみ学します。見学にも担当者が付きます。子供たちは実際のスタジオが見られるので、興味津津です。

中央博物館長：説明の時間はどれくらいですか。

委員E：約40分です。番組の制作スタッフなどが説明します。

中央博物館長：勝手に見て頂くのではないということですね。

委員E：NHKの101スタジオなど、何もない広いスタジオ内に入ると子どもたちは喜びます。大道具のためのトラックが入れるスペースがありますし、舞台裏を見ることには皆、とても関心があります。大河ドラマのスタジオなど、難しいところはあるのですが。

委員F：私は中央博物館の学習キットなどは良いと思いました。もし、博物館の出前授業に限界があるようであれば、逆に先生方がキットの使い方を学び、それをお借りして利用するという方法もあります。

委員D：館に出向くことで学習キットを利用する意味もあるのではないのでしょうか。出前授業を広めていくためには、もっと博物館の人は足を使うべきです。教育委員会巡りなどを積極的に行うことで、出前授業を広めていく足掛かりができます。また、出前講座の参加者を入館者数に入れるのは如何なものかと思いますが。子供たちに直接館に出向いてもらうことが大切です。

中央博物館長：学校で子供たちが教師に接する態度と、博物館の研究員に教えてもらうときの態度は明らかに違うと思います。博物館の研究員は直接生徒を評価しません。博物館で学習する価値をもっと上手く活用すべきと思います。

委員G：博物館でしかできない学習の魅力をもっとアピールすべきです。それを博物館力の向上につなげるべきです。学校の学習支援は、平均的な学力をすべての子供たちに身につけさせることが求められますが、博物館での学習は、科学や自然、芸術などの英才教育的な内容があっても良いのではないのでしょうか。学校の教科は苦手でも、化石や昆虫のことにになると目を輝かせ、大人顔負けの知識を持つ子もい

ます。そのような子に学習支援することがあっても良いのではないのでしょうか。たとえば、博物館のバックヤードツアーのような学習を行い、未来の科学者やノーベル賞候補を育むきっかけとなるかもしれません。博物館の研究員の専門性を、ストレートにぶつけられる子どももいるはずですが、また、学校とは何かと考えたときに、入館者の層を考える必要があります。上野の東京国立博物館のような場所で、どんな人が列をなしているか見ていると、中高年の比較的時間のあふる人が多いように見受けられます。このような人たちがどこで学んでいるかといえば、公民館やカルチャーセンターのようなところだと思います。このような層の方々もターゲットと考え、公民館のような機関にも声をかけていく必要があります。

委員H：生涯学習としての大人世代への博物館の利用も、学校と同じく教育と考えるべきなのでしょう。また、学校の先生方が博物館の利用法を良く知らないのなら、大学の教職員課程の段階から、学校の博物館活用について学ぶ機会を設けることも一考であると思います。さらに教員免許更新研修が行われていますが、この研修項目に学校の博物館活用について学ぶ内容があれば良いと思います。小学校の夏休み読書感想文が今でも宿題で出されていますが、課題図書についてそれぞれの地域の学芸員の推薦図書を提示して、作文を書かせる。それに関連した展示があればなおさらです。スーパーサイエンスハイスクールに行った生徒対象の学習メニューがあっても良いと考えます。

委員I：基本的な博物館の在り方を考えたとき、その存在感を地域に示すことが重要です。調査・研究を充実させてその成果を地元の博物館が発信することで、その存在感をアピールできます。そしてその成果を、学校の学習単位と結びつけていく。中央博物館では「もののけ」に関する展示や事業を展開していますが、地元の妖怪情報などを調べることで、郷土の伝承や伝統文化に目を向けることにもなると思います。

委員C：歴博はいつ見てもたくさん子どもたちが訪問しているように思いますが、学校の遠足の定期コースに組み込む働きかけなどをされているのでしょうか。

委員I：教員を対象とした活用委員会を作り、例えば先生方に、歴史の授業に、どこに展示されているどの資料が活用できるのかなどを周知しています。

委員A：最後に、今回提示された検討テーマには4つの項目が示されていますが、この内容に討論は限定されるのでしょうか。

事務局：次回からは、その館の実情に合わせた議論をして参りますので、4つの項目に制約されることはありません。

議長：それでは議事を終了し、事務局に進行をお返しします。

事務局 （閉会あいさつ・次回案内）